

がん教育推進自治体視察レポート

高等学校における研究授業「がん教室」(秋田県教育庁)

<b>&lt;実施目的&gt;</b> 生徒が「がんに対して正しく理解すること」「健康と命の大切さについて主体的に考えること」ができるようにする			
<b>教科</b>	保健体育科「科目保健」	<b>単元</b>	現代社会と健康
<b>実施日</b>	令和6年11月5日(火)	<b>時間</b>	13:20~14:10、14:20~15:10
<b>対象</b>	秋田県立新屋高等学校 1年生(158名)		
<b>授業者</b>	全体進行 : 齊藤 明子 教諭 外部講師 : 市立秋田総合病院 消化器外科 大腸外科長 陳 開 氏(がん専門医) 外部講師 : 佐藤 裕子 氏(がん経験者)		

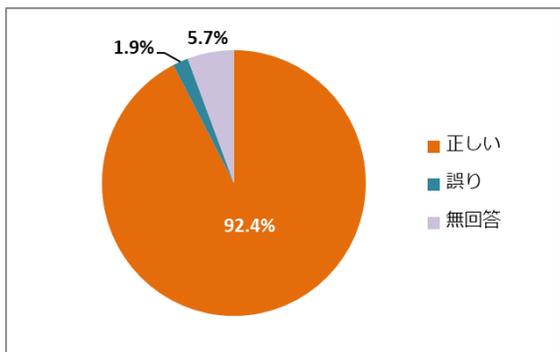
<「がん教室」の流れ>



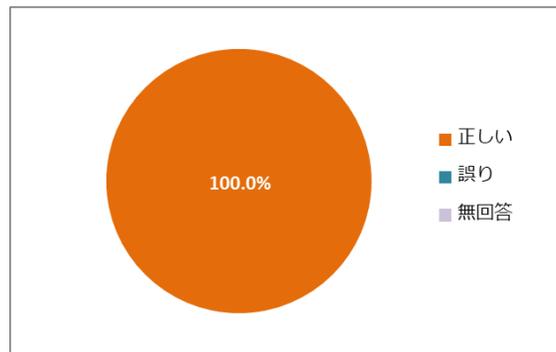
「がん教室」授業前後の生徒の変容

Q：がんは誰もがかかる可能性のある病気である

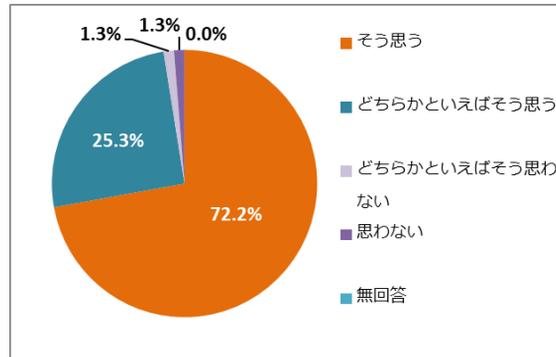
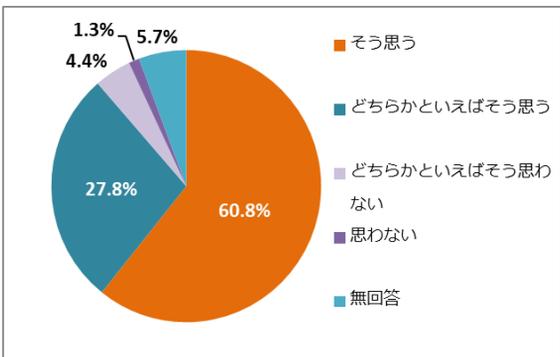
<授業実施前>



<授業実施後>



Q：がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う



生徒の感想(抜粋)



がんについての説明を聞いて、命があることの素晴らしさや、身近な人の命の大切さが分かりました。



自分のためにも、大切な人のためにも、がんについての知識をしっかり身に付け、がん検診を周囲に勧めていこうと思いました。



がん経験者の方の体験談を聞くことで、がんと闘う人の気持ちや日常生活の大変さが理解できました。



身近な大切な人ががんになってしまうこと、そして亡くなってしまふことが辛いことだと実感し、がんにならないためにできることを一緒にやっていきたいと思いました。

今回の授業「がん教室」についての視察担当からのコメント

秋田県教育庁は「がん教室」という名称で、授業時間を2時間確保し、同一の授業プログラムで県内のがん教育を推進している。1時間目は外部講師の講話が中心、2時間目はグループワークが中心の構成で、外部講師は、医師とがん経験者の2名体制で実施している。

今回の授業の全体進行は教員、講話は外部講師である医師とがん経験者、グループワークは外部講師が進行し、学校と外部講師との良い連携が取れていた。

グループワークは、3つのステップに沿って生徒が活動する構成で、生徒ががんを身近に感じられるよう、発問を工夫していたため、どのグループも活発に話し合いを行っていた。

今回の「がん教室」のテーマである「早期発見」の重要性等、授業構成、内容共に練られた授業であった。